



MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2017年2月号



発行人：濱塚有史 編集人：武田悠 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通8-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: info@moriokaymca.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



「なにかある」

川口 奈恵 (岩手県立大学4年・チョップリーダー)

「チョップにチョップされないようにね！」少しだけ子どもたちに受ける自己紹介だ。あくまでも少しであるため、大爆笑とはいかない。それも私なのかも思う。

私がYMCAの活動に参加するようになったのは県立大学に3年次編入をした後だった。勧誘のために配られた手作りのピラからは、楽しそうに子どもたちと活動している様子が見て取れた。その時、多分この団体に入るんだろうな、と心の中で思った。それはビビッときて買ったものを使い込むように、仲良くなれそうと思った人と仲良くなるように、そんな感覚と似ている。その時働いた直感により、就職を控えた今でも活動を続けている。

さて、今回の記事を書くに当たり、ここでの2年間でどんなものだったのか考えてみた。しかし思いつくのは楽しかった活動や、子どもやリーダーやスタッフさんたちとの思い出ばかりであった。ただ、そこにはできないことやわからないことに対する葛藤や失敗も混ざっている。それでも、全てを含め「楽しかった」のである。「子どもは遊びの中で育つ」と言われているが、この2年間で振り返ると私も遊びの中で育ってきたことを実感する。YMCAに関わって育つ子どもたちにも、私のように楽しい活動の中で気づいたら学びがあったという経験を通して成長して欲しい。

これまで私は自分を守るために、クールを装い気持ちがばれないように生きてきた。しかしここではそれが通用しなかった。活動を重ねるにつれ自分が心から笑っていることに気づいた。その反面増える「チョップって～だよな」の一言。ズシとくる一言であるが、なにより、YMCAの中では、「それでもいい、それがいい」と言ってくれていると感じられる何かがあると伝えたい。生きてきて22年、自分なりに把握している面とそうではない面を知ることによって、私というものがYMCAと関わることで形作られてきたと思う。それは何となくこね始め、形ができてきた粘土のようだ。最終的には夏休みの工作で出した粘土の作品のように滑稽な形に出来上がったとしても、それまでに作ってきた過程や困難を知っているのは自分だけである。だから自分を隠すより、楽しみながら成長していきたいと思えるようになった。

たいそうなことを述べてきたが、まだまだ未熟である。それでも春から保育士として働く。子どもたちには楽しく健やかに育って欲しいし、私がそうしてもらったように君でいいんだよと行動で伝えていけたらと思う。



☆エンジョイ・ジュニアスキーキャンプ☆

12月26日(木)～12月29日(日)にかけて、エンジョイ・ジュニアスキーキャンプが行われました。メインリーダーのあさりリーダーこと！安久津里彩さんからレポートが届いております。



今年のスキーキャンプは、元気な67人の子どもたちと個性豊かな14人のスタッフ、リーダーたちが集まりました！人数が多く、たくさんのお出会いと楽しさ溢れるキャンプをみんなで作ることができたと思います。

八幡平リゾートホテルに宿泊し、最終日以外は安比高原スキー場でのスキーレッスン。移動のバスの中も、各グループごとに歌を歌ったりじゃれて遊んだり、みんなの笑顔が絶えません。スキーレッスンでは、子どもたち一人ひとりが自分の目標に向かって一生懸命頑張る姿が見られました。吹雪で前が見えにくい時は叫び声でカバーしあったり、転んだリーダーに雪をかけて遊んだり、替え歌を歌いながらストックワークを行ったり…真剣な中にも遊び心を忘れない盛岡YMCA。どんな状況でも楽しさを生み出す天才だなあと感じました！

ナイトプログラムもガンガン騒ぎます。日を重ねるごとに子どもたち同士の繋がりも見られました。最終日はグループ関係なく、誰とでも遊

べるくらい、素敵な集団になっていきました。今回みんなには、「誰から見ても良いキャンプだと思われるようにしましょう。」と伝えました。自分たちだけが楽しいので良いのだろうか…様々なルールを守り、他のお客さんのことも考えて行動することを話しました。お互いに注意し合う姿が見られたり、意識して取り組む子どもたちがたくさんいてとても嬉しかったです。やることをしっかり行う時と、ふざけて遊ぶ時を区別し、それぞれ全力で取り組めたからこそ、楽しいと思えるキャンプを作ることができたと思っています。私も子どもたちからたくさんのお話を学ばせてもらったキャンプでした。

毎年エンジョイ・ジュニアスキーキャンプはなぜこんなに楽しいのか…。楽しい！と共感できる仲間がいると、もっと楽しくなる。寒くてちょっぴりくじけちゃう時も、共感できる仲間がいるから乗り越えられる。最終日のみんなの笑顔はとびっきりです！是非これからも、スキーキャンプで楽しい思い出を作ってくださいね！！

盛岡大学4年 安久津 里彩 (あさりリーダー)



ナイトプログラムでの一枚☆リーダーたちが考えたオリジナルゲームで盛り上がりました！

お昼ごはんでの一コマ☆お昼を食べて、午後のスキーレッスンも楽しむぞ！

リフトに乗ってワクワク気分☆これからスキーが始まるよ！楽しく元気に滑りました☆

☆ダイナミックスキーキャンプ☆

1月5日(木)～1月6日(金)にかけて、ダイナミックスキーキャンプが行われました。メインリーダーのダイラーリーダーこと！松平大知さんからレポートが届いております。



こんにちは。岩手県立大学総合政策学部2年のダイラーこと松平大知です。今回は1月5日から6日にかけて行われたダイナミックスキーキャンプの報告をさせていただきます。

5日の朝、マリオスのバス乗り場に集合した子ども達。朝から元気いっぱい、楽しいキャンプになりそうな予感がしていました。早速バスに乗り、安比高原スキー場に向かいました。バスのなかでは、ドレミの歌をアレンジしたゲームを行ったり、キャンプでおなじみの“ロックマイソウル”ならぬ“ダイナミックソウル”を歌ったりしながら、過ごしました。

ホテルに到着しホテルの方に挨拶をし、みんなで昼食を食べた後、早速みんなでゲレンデに向かい、スキーレッスンをしました。体操もみんなで大きな声で行い、とってもダイナミックでした！天候は雪で少し風もあり、とても寒かったのですが、天気負けずみんなとってもダイナミック！パワフルに滑っていました。

スキーレッスンを終え、ホテルに帰り、みんなで温泉に入った後は、お待ちかねの夕食の時間。子どもたちはお腹がペコペコで、ペロリと食

べてしまい、中にはご飯をおかわりしていた子もいました。

夕飯を食べた後は、ナイトプログラムを行いました。その名も、“第一回チキチキウルトラダイナミッククイズ大会”！男女に別れ対決を行いました。クイズパートは女子の圧勝！第二部のリーダーダービーでは、男子の逆転勝利！大盛り上がりでプログラムを終えることができました。

二日目の朝も子どもたちはとってもダイナミック！室内で行ったダイナミック鬼ごっこでは、寝起きとは思えないほど元気でした。朝ごはんももりもり食べて、二日目のスキーレッスンをしました。天候は快晴で、とってもスキー日和！どのグループも格段に上手に、ダイナミックに滑れるようになっていました！

盛岡に帰ってきての解散式。子ども達はまだまだキャンプをしていたような表情でした。この二日間、子どもたちとリーダーのたくさんのお話を聞いた、とってもダイナミックなスキーキャンプになりました！

岩手県立大学2年 松平 大知 (ダイラーリーダー)



ゲレンデに到着！モフモフの雪に囲まれ満面の笑み☆

夜ご飯はハンバーグ！男の子たちのお腹はもう我慢ができません！いただきます☆

一日の終わりに日記を書きます。お部屋でまったり！何を書こうかな？

インターン生、福島へ！！

日本のYMCAでは、福島での被災地支援活動を現在も継続して行っています。今回は、東日本大震災で被災した宮古出身のピーちゃんリーダー、大船渡出身のチョップリーダーが「住友商事 東日本再生コースチャレンジ・プログラム」の一環で福島を訪問しました。ピーちゃんリーダーこと大藤百華さんより、レポートが届いています。



私たちは、インターン活動として12月21日に福島県の白川郡棚倉町の堀川愛生園、南相馬市の原町教会を訪問しました。そこで堀川愛生園園長の伊藤信彦さん、原町教会伝道師の中野通彦さんから福島県の震災について、児童養護施設について、福島県の現状など、様々なお話をお聞きしてきました。

お話を聞いていて感じたのは、福島県と岩手県では同じ東日本大震災を経験したといっても、その質は大きく異なっているという事です。やはり原発事故によって放射能被害を受けた福島県は、その被害の爪痕が大きいと感じました。わたしは震災後初めて福島県を訪問しましたが、実際にそこに暮らす方々のお話を聞いて今でもたくさんの人が放射能被害に苦しんで生活しているのを感じ、その被害の大きさを改めて感じました。

福島第一原発付近では未だ基準値を超える放射能が観測されている事、避難地域は人の影もなく建物もボロボロの状態になってしまっている事、子供たちは未だに外で遊べる環境にはないことなど、実際に福島に行ったからこそわかることがたくさんあり、復興への道はまだまだなのだという事を痛感させられました。

私たちが聞いたこと、見たものはほんの一部ですが、一部だったとしても感じるものはとても大きく、考えさせられるものがありました。原

発事故についてはニュースではよく耳にしますが、実際に現地に足を運んで、そこにある現実を肌で感じる事ができたということは自分にとって大きな経験となりましたし、震災の事実を自分の目で確かめるというのはとても重要なことであると感じました。今回経験できたことは自分にとって「東日本大地震」というものを改めて考え直すきっかけとなり、またもっと新たな視点から捉え直すための貴重な機会となりました。

岩手大学3年 大藤 百華 (ピーちゃんリーダー)



中央は、福島で牛の畜産をしている岡田さん。音楽活動も行っており、自慢の歌声を披露して下さいました。←



右端に写っているのは、堀川愛生園で活躍している、かつて盛岡YMCAのリーダーであった王子リーダー！←

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 1月報告書

☆宮古サッカーⅢ期開講！

皆様新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

ということで、2017年も宮古サッカースクールは元気いっぱい始まりました！1月17日から始まった宮古サッカースクールはこれまで使っていたサッカーボールを一新！以前から宮古ボランティアセンターの活動を支援して下さっている歌手のSoahさんがチャリティイベントの益金の一部を送って下さったので、25個の新品のボールを購入できました。本当にありがとうございます。

今までサイズもバラバラで自分の使いたいボールが使えないと文句も飛び交っていたサッカースクールはピカピカのボールで楽しくサッカーをしていました。

新年1回目は10人でのサッカースクールでしたが、雪の上でのサッカーは宮古で去年は味わうことのできなかった少し違う楽しいサッカーでした！練習や試合では、思いっきりぶつかろうと諦めず、ワーワーと声が途切れずにプレーしています！（細かな指示はまだ出ませんが…(笑)）ルールが難しくなってくると、分からない！とやらなくなる選手も続出していたスクールも徐々に複雑なルールを理解して楽しめるようになってきました！

今年も1人ではなく、みんなのできる、みんながいるから楽しいんだということサッカーを通じて感じていけたらいいと思っています！元気いっぱいの宮古サッカースクールをどうぞよろしくお願いたします！

社会人リーダー 向平 悟 (Gパンリーダー)



☆リーダー紹介コーナー☆

こんにちは！トラックこと、齊藤七彩です。今回私が紹介するリーダーは、私と同じ、岩手大学一年生の佐藤涼香！ママチャリで走るの大好き！みんな大好き「チャーリー」です！え？チャーリーって誰って？そんな君のために、知ってるよっていう君にも、チャーリーってこんな人！っというのを私なりに書いてみたいと思います。

度胸がある。ノリが良い。誰とでも仲良くできる。カメラ向けるとキメ顔をしてくる。意外と乙女。最近髪を切って可愛い。でもそれを自覚しているところが問題。(笑)素直。頑張り屋。声がでかい。下ネタ大好き。映画を観ると感情移入する。愛されキャラ。子どもが大好き。優しい。

チャーリーを知ってる君、同じ印象だったかな？チャーリーを知らなかった君、今度一緒に過ごしてみして下さい。きっとハッピーな時間を過ごせるとおもいますよ。

実は、今回チャーリーを紹介することになったと本人に話したところ、こんな風にアピールされました。

「私は桐谷美玲のようなスタイルを持ち、石原さとみのような顔を持つ現役大学生です。」現役大学生しか合っていないせん。(笑)でも、そういうジョークを言える、怖いもの知らずなところが彼女のいいところだと思うんです。

みなさん、チャーリーはどんな人か分かっていただけでしょうか？皆さんも、皆さんにとってのチャーリーの魅力を見つけてみてはいかがでしょうか？

岩手大学1年 齊藤 七彩 (トラックリーダー)



こちらが、チャーリーリーダーです☆ ←



こちらが、トラックリーダーです☆ ←



